

ほほえみと共感



東京大学大学院数理学研究科 教授

石井 志保子 氏  
しいい しほこ

富山県出身。東京工業大学大学院理工学研究科教授を経て2011年4月より現職。1995年、顕著な業績をおさめた女性科学者に贈られる「猿橋賞」受賞。専門は代数幾何学、特異点理論。夫の隆一氏は富山県知事。

著作権の関係上、表示できません。

日本人は時々意味の分からない微笑みを浮かべ、それが欧米でトラブルを招いたという例もあるようだ。

欧米人の微笑みは意味がはつきり分かる。嬉しいとき、楽しいとき、その他廊下で行き会った知らない人が見せる微笑みは「私は怪しい人ではありませんよ。危害は加えませんよ」というメッセージだ。欧米人に何かを説明しているとき、少しでも分かりにくいことを言うのとたんに眉が険しくなり「ちょっと待て、それはどういうことか」と訊いてくる。一方、日本人相手だと微笑みながら聞いてくれるので納得してくれたのかと思ふと実は正反対の意見だったりする。夫が亡くなったことについて静かに、時に微笑みを浮かべて話す日本人女性に違和感を持つ欧米人もいる。

小泉八雲が指摘したように、この微笑みは他者の感情に対する共感を表しているようだ。「説明してくれますよ」だったり「一所懸命さに共感しますよ」だったり「私の不幸に心を痛めてくださっているあなたに共感しますよ」だったりする。確かに私たちの心には他者と感情を共有したいという欲求があるようだ。

アパートに住んでいたときに火災報知器の誤作動でよく警報が鳴ったが、その度に各家庭の主婦は廊下に顔を出して「鳴ったね」「鳴りましたね」「またです

ね」などと不安感を共有して安心したものである。以前ドイツのボンにあるマックスプランク研究所にいたとき、ある時期から洗面所にハンガーでTシャツがぶら下げられているようになった。しかも日によつてTシャツが替わるのだった。不思議に思つて、ある日お茶の時間にアメリカの女性研究者に「あれはなんだろう」と訊いてみた。日本なら「何でしょうね、私がかねがね不思議に思っていました」と共感してくれるところだが、彼女は「私に聞いても無駄よ。誰が、何のためにそんなことをしているのかさっぱりわからないわ」と素っ気ない。共感を求めても得られない相手はこの世にたくさんいるのだ。

感情を共有しあう気持ちは日本人の美德だと思ふ。このような気持ちがもつと世界に広まってくればよいと思ふ。一方で感情の共有だけでは解決しない問題が世界にはあふれている。ビジネスでも学問の世界でも、微笑みを抑えて真剣に議論を戦わすことも大切なことである。